

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4790300034		
法人名	医療法人社団志誠会		
事業所名	グループホームあおば邸		
所在地	沖縄県うるま市上江洲708番地1		
自己評価作成日	平成25年1月14日	評価結果市町村受理日	平成25年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/47/index.php?action kouhyou detail 2012 022 kani=true&amp;JigyosvoCd=4790300034-00&amp;PrefCd=47&amp;VersionCd=022">http://www.kai gokensaku.jp/47/index.php?action kouhyou detail 2012 022 kani=true&amp;JigyosvoCd=4790300034-00&amp;PrefCd=47&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F		
訪問調査日	平成25年2月13日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・イベントを通じて季節感を味わえるよう工夫</li> <li>・入居者一人一人の誕生日に手作りケーキを作り、誕生会を開催している</li> <li>・職員間の連携と情報共有、職員教育に力を入れている</li> <li>・施設環境では同法人の工房で作成した壁画や滝・居室入り口のレリーフ等焼き物を設置</li> <li>・リビングの大きな窓から差し込む光、洗濯室が明るく綺麗なサンルーム</li> </ul>
--

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>事業所は開設5年目を迎え、地域の方が常時訪問する等地域に根差した環境で入居者が馴染みの顔に囲まれて暮らしている。毎年恒例の地域行事に入居者が参加し、事業所の行事には地域の方々をお招きして交流の機会を増やしている。職員は、理念の一つ「新しい可能性を引出す」の支援に取組み、「やってあげるのは簡単」「できることを奪わない」「待つてあげる」を実践し、入居者の活きる意欲に繋げるよう努めている。法人施設等との併設で、夜間や緊急時の医療連携が図られ、また、災害時対応のシステムも構築されている。運営推進会議での委員意見(環境)や、昨年度の外部評価目標等へは既に取組み改善している。</p>
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時職員研修で作り上げた。なじみやすくわかりやすい言葉を使い、日々の生活で実践しやすい内容に設定。職員が目につく玄関に掲げ理解、実践に繋げている。新職員にはオリエンテーションの中で理念について説明し共通理解ができるようにしている。	事業所は開設時の理念、特に「誰でも気軽に来られる場所」「入居者の新しい可能性を引出す」について、「午前の体操への住民の参加」や「入居者のできる事発見」等として、継続して取組んでいる。職員間でも「入居者ができる事を奪わない」等の意識を持ち、新任職員にも説明し共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方が気軽に立ち寄れるよう日中は門を開放。行事にはご近所に招待状を送り気軽に参加できるように配慮している。またご近所からおやつ差し入れなどがある。また上江洲区の行事に参加し交流している。	地域行事の情報を運営推進会議で収集し参加に繋げている。事業所の行事には、周辺住民等に招待状を時には入居者と一緒配布し参加を呼び掛けている。世代間交流を兼ねたボランティアの訪問も定期で受けている。管理者が時々健康管理について相談に応じている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人にきた看護学生、夏休み施設体験学習を受け入れ、子供達に認知症についてわかりやすく説明を行っている。また受け入れるときは、できるだけ二名までに制限し入居者の混乱を招かないよう配慮している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回の運営推進会議を実施。会議では行事、事故、人事、外部評価の結果報告などさまざまなことを話しあっている。また委員から意見のあった飛び石について砂利を足して段差を埋めるなど対応しサービス向上に努めている。	会議は、奇数月で曜日と時間を確定して開催し、事業所の運営や入居者の活動状況、事故やヒヤリハットは毎回、避難訓練や外部評価結果等は随時に報告している。行政等の出席は毎回あるが、入居者が会議に参加する機会は設定していない。	運営推進会議の基準省令で、構成委員として利用者が一番目に謳われているので、要綱等への提起が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行事開催時には招待状、施設広報誌「ゆんたく広場」を手渡し、取り組みなどについて説明するようにしている。また介護長寿課の職員を運営推進会議の委員とし協力関係を築いている。	行政担当者は担当課から運営推進会議に参加し、会議において意見等の情報を交換している。行政窓口を訪問し、行事案内の招待状や広報紙を届け、事業所の状況も合わせて報告している。介護保険制度の改定や、事業所利用区域等について説明を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止について年間計画に基づき勉強会を開催。全職員身体拘束をしないという認識を徹底している。また入居者個々に事故防止対策表を作成し、拘束しなくても安全に生活できるように取り組んでいる。	身体拘束防止について職員は研修を通して理解を深め、事業所の方針は重要事項説明書で明示している。入居者別に「事故防止対策表」を作成し、個別のリスクについて共有しケアに活かしている。構造上死角が多くセンサーを活用しているが、日中は活動と見守りを強化し一部解除している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について年間計画に基づき勉強会を開催。職員全体が虐待について意識し防止するよう努めている。		

沖縄県(認知症対応型共同生活介護事業所 グループホームあおば邸)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会で取り上げている。しかし全職員が理解しているとは言えない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申し込み(入居相談)と入居前に、重要事項説明書に基づき入居者やご家族へ説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を靴箱の上に設置。家族・入居者の要望を聞く機会を設けている。また面会時には不安や不満がないか職員のほうから積極的に声かけを行っている。新職員に対しても家族面会時には必ず入居者の日ごろの様子を伝え、それをきっかけに家族の要望を聞きだせるようにしている	入居者とは日常の生活の中で、家族には面会や通院時、入居者の状況を伝える事で家族とのコミュニケーションのきっかけと職員は捉え意見等を引出している。家族から、バットの使用が多い等の意見があり、尿取り器等福祉用具の情報を収集して対応に備えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は月一回のミーティングを実施し職員の意見や行事案について聞く機会を設けている。更に管理者は母体施設や法人の会議に参加し運営者へ意見を報告し運営に反映させている。	職員は毎月のミーティングや管理者に直に意見を表出している。職員間で新任職員の日中のケアを観察し、夜勤が可能か否か等の意見を判断に活かしている。今年度は退職等で新任職員が増え、入居者との新たな関係作りに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は定期的にホームへ足を運び入居者とともに過ごしている。また個別に職員の業務や悩み、体調を把握し面談、フォローしている。資格取得に向けて法人他施設と共同し勉強会を開催予定である		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間職員研修計画を立てている。月一回の勉強会、また沖縄県グループホーム連絡会主催の研修や認知症実践研修に参加させ、勉強会やミーティングでフィードバックし職員全体の知識や技術力のアップを目指している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会を通じて他グループホームと交流する機会を得ている。またうるま市のグループホーム間では何かあれば互いに連絡を取り合い情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談から本人と会い関係作りをはじめ、困っていることや不安なことを話してもらえよう取り組んでいる。入居前の入院先や入所施設へ足を運び顔見知りの関係作りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの生活状況や家族の苦勞、今後の不安について受容し、事業所として対応できるよう話し合いを持っている。特に入居間もない家族に対しては関わりを多く持ち関係作りに勤めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思いだけでなく、心身の状況なども加味しながら必要な支援を見極めている。これまでに医療機関への紹介や老人保健施設、他グループホームと連携し入居調整の対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者が人生の先輩であるということを職員が共有しており普段から入居者に教えていただくことが多い。特に料理の味付けや沖縄行事に関する学びが多く一緒に暮らしを支える関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族から入居前の暮らしぶりを聞いたり、現在の生活状況を細かく伝えている。三ヶ月に一回は写真入の広報誌を発行し家族へ生活状況がわかるように工夫。年末には入居者が家族宛の年賀状を書けるよう支援し家族関係が継続できるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られた知人がまた足を運びやすいように「またいつでも遊びに来て下さいね」など職員から声かけを行い関係が途切れないように努めている。外出の際には以前生活していた地域を通るようルートを工夫している	入居者の情報は家族や知人、友人等、入居者同士の家族間からも情報を得ている。入居者の知人2人の定期訪問や、年に1度親族の訪問を受けている。入居者の生活圈をドライブや行事参加等のついでに廻り、コミュニケーションを図っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関わりを多くもてるように、朝の体操や午後の活動時間を設けている。また新聞記事から話題を提供し入居者同士の交流のきっかけ作りを行っている。		

沖縄県(認知症対応型共同生活介護事業所 グループホームあおば邸)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も必要に応じて、退居先(病院・老健)での面会や家族からの相談など随時行い関係が途切れないように努めている。また退居先の栄養士や理学療法士からの問い合わせや訪問などについても対応している		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症により意欲の低下が見られ、希望を聞きだすことが困難な方も、日常会話で本人の思いを聞き生活の中に取り入れている。しぐさや行動で本人がいま何を訴えているか汲み取れるよう努めている。また日課活動へも入居者の意思による参加を促している。	入居者の思いや意向は生活の場面で反映し、おやつや飲物や入浴の順番、衣類の選択等の機会を設けて応えている。就寝時のパジャマを入居者の好みに合わせる為家族にも協力を依頼している。直に訴え等が厳しい場合は、仕草や動作で意向を汲取り、支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族や本人にこれまでの暮らしや職業などを聞きとり把握に努めている。面会時に家族や知人などから本人の入居前の暮らしぶりを聞き出すなど常に把握を続けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の状態やバイタルをケース記録に入力。朝と夕方に申し送りを行い職員間で情報共有を行い、本人の状態を把握するよう努めている。生活・心理面、出来る事に着目しその人全体の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全体で情報交換や本人・家族から得られた情報などを介護計画に反映している。カンファレンス時には家族や本人が参加し介護計画について一緒に検討している。また心身の状況に変化があった場合には随時計画の見直しを行っている。	入居者の介護計画は、入居者や家族が参加するサービス担当者会議、モニタリング等を通し、担当職員の意見等を反映し作成している。入居者の状態の変化をモニタリングで把握して、随時の計画の見直しに繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態や気づきは個々のケース記録に入力、業務日誌に反映し、朝、夕の一日二回の申し送りで情報共有を行っている。入院後や著しいADL変化があった場合には介護計画の変更を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族だけで対応が困難な場合には外来通院に職員が付き添っている。また外出が難しい入居者に対しては訪問美容室の受け入れもやっている。		

沖縄県(認知症対応型共同生活介護事業所 グループホームあおば邸)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会福祉協議会のボランティア担当や地域の大正琴ボランティアを活用し暮らしを楽しめるように支援している。また消防避難訓練時には火災報知機会社などのスタッフを派遣してもらい安全な消火器の使い方などをレクチャーしていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望する医療機関を利用して頂いている。定期的内服薬が切れる前に家族へ連絡し受診を促し、また受診時にはバイタル表や情報提供書を発行し必要な医療が受けられるよう支援している	定期受診は家族対応を重要事項説明書で謳い、これまでのかかりつけ医で受診している。職員は、入居者等の状況に応じて同行等の支援をしている。受診時の情報提供書や受診後の報告等で情報を共有している。かかりつけ医等と話し合い、早期発見、治療の連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携加算や看護職員の配置はない。しかし母体施設の老人保健施設の看護職員と連携し24時間相談できる体制をとっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には入院時の情報提供。治療経過の情報交換を地域連携室を利用しながら家族と連絡を取り合い退院後の方向性を見極めている。また入院しても職員が面会し本人や家族の話を聞いたり、担当看護師へ施設での暮らしぶりやADLの情報提供を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療ニーズが高く重症化した場合、入居継続が難しいことを当初から家族、本人へ説明を行っている。そのため重症化を防ぐことを徹底し早期発見、早期治療に取り組んでいる。常にかかりつけ医、家族と話し合いを繰り返しチームで対応を行っている。	事業所は、重度化や終末期について入居者や家族と入居時や状態の変化時に話し合い、医療を要する場合は医療機関に繋げる方針としている。入居者の重症化を防ぐ為の早期発見、治療の取組みを事業所が対応し得る最大のケアとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応やマニュアルを作成し実践している。またその時々入居者の状態によって予想される事故に対してはミーティングで取り上げ対策を検討している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回訓練を法人関係施設と協力し実施。自動火災通報設置に伴い、通報と共に3つの関係施設に火災通報が届き、すぐに駆けつけられるよう体制を整えている。また地域の方へは事前に訓練があることを知らせ参加をお願いしている。	訓練は法人関係施設協力の下、年2回(3月・9月)昼夜を想定して実施し、地域住民も参加している。9月の訓練時には防災設備業者も参加し、機器の点検や取扱い等を指導している。災害時対応マニュアルを整備し、非常災害について研修も実施している。	

沖縄県(認知症対応型共同生活介護事業所 グループホームあおば邸)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・前回の外部評価で指摘があり、プライバシー等に配慮し、一人一人の人格や尊厳を尊重した声かけ対応見直すため、ミーティングで取り上げた。個人情報の漏洩について日々徹底されているか管理者が確認している。	入居者を人生の先輩として敬意を払い、特に誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけをしない支援に努めている。支援する際は、自分に置き換えたり、親、祖父母と思って対応するよう、ミーティング等でも話している。個人情報等の破棄はシュレッター使用を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おやつ時間に飲み物を選択して頂いたり、入浴準備前に本人に洋服を選んで頂いたりしている。夜は本人が見たい番組があれば見ていただき好きな時間に就寝して頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事やおやつ、活動時間は決まっているが、その他の時間は本人のペースで過ごしていただいている。入浴の順番などは本人の希望も取り入れ行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	いきつけの美容室のある方は継続してそのお店を利用できるよう支援。本人の好みでその日一日を過ごす服を決めて頂いている。外出時にはお化粧をしてもらい華やかな気分になれるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者が食べたいもの、好きなものを献立に取り入れ調理、片付けにいたるまで入居者と協働して行っている。日勤職員と一緒にテーブルを囲み食の楽しみを分かち合えるようにしている。また行事食をメニューに取り入れることで食を通じて季節を感じ日々の生活に潤いをもたすことが出来るよう取り組んでいる。	事業所内で3食調理し、入居者はエプロンをして、食材の下ごしらえやカットに参加している。入居者一人ひとりの器や摂取量を設定、配膳後にお箸かスプーンを選択している。入居者のほぼ全員が各々で下膳し、食器を洗っている。職員も一緒にテーブルを囲み会話しながら食事を摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体施設の管理栄養士と協力し入居者の好みも取り入れたバランスの取れたメニューを作成。毎食事量を記録し摂取量を確認している。定時の水分補給。おかゆやキザミ食、おにぎりに等個々にあわせて食べやすい食事形態を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声かけ、介助、見守り、一人一人に応じた歯磨き支援を行っている。またチェック表を作成し口腔内の清潔保持に努めている		

沖縄県(認知症対応型共同生活介護事業所 グループホームあおば邸)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をもとに排泄パターンを把握。トレーニングパンツやオムツの方もトイレに座って頂き気持ちよく排泄できるよう取り組んでいる。失禁が多くなっても家族や職員と話し合い誘導時間の見直し等で排泄習慣が守られるよう支援している。	排泄チェック表を活用して、トイレで排泄できるよう声かけし誘導している。「オムツ外し～綿パン」に取組み、家族にパットや綿パンツの購入を依頼し、トレーニングパンツから綿パンツでパット使用を支援している。入居者に合うパットの種類も検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認を行い、便秘時には水分や牛乳などを多めに、また日課活動に起立訓練を取り入れ便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	気持ちよく入浴できるよう声かけや対応を工夫している。また入浴拒否のある方も本人のタイミングやサインを見逃さず入浴できるよう支援している。	隔日入浴を基本に入居者の意向を尊重し支援している。例えば、毎日自分で入浴したいや、必ず同性の介助等、入居者の意思を確認し支援している。入居者は一人ひとり好みのシャンプー、石鹸を使用し、入浴を拒む場合は、言葉かけや職員をかえて対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠リズムを整えるためなるべく日中離床を促しているが本人の希望や状態、これまでの生活リズムによって午睡も行っている。就寝前はパジャマに着替えてリラックスして就寝できるよう配慮。また本人が希望する時間に就寝して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容や副作用の一覧表を張り出し、全職員が内容と効果を理解できるよう取り組んでいる。また薬剤内容をカルテに綴り、常に確認できるよう配慮。症状の変化はケース記録、業務日誌に記載し、全職員で情報の共有化を図っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理や掃除、洗濯物たたみ、シーツ交換を一人一人が出来る範囲で役割を持ち生活できるよう支援している。季節の行事には一人一人が役割を持ち参加することによって張り合いや喜びのある生活を送れるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	事業所の行事として定期的に外出する機会を設けている。車椅子で家族との外出が困難な方でも施設職員と一緒に外出する機会を作っている。また本人が外に出たいという希望があればすぐに職員が付き添い散歩など行っている。	事業所周辺の散歩やテラスでの外気浴、初詣、ドライブや法人の行事(夏祭り、敬老会)に出かけている。今年度は、感染症予防で日常的な買物を控えたり、職員の入れ替りもあり全員参加の外出等の機会が減少している。	入居者が普段行けない場所や特別な楽しみ等を計画的に実施できるよう、外出支援に期待したい。

沖縄県(認知症対応型共同生活介護事業所 グループホームあおば邸)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを管理している方は現在はいらっしゃらないが希望があればお金を所持できる支援体制は整っている。また食材の買出しはレジで支払いを入居者をお願いしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望したり家族からの電話がかかって来たときは、話をして頂いている。また入居者が家族へ年賀状を送るなど家族とのやり取りができるよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの大きな窓明るい日の光が差し込み、庭の滝の音や花を楽しむことが出来る。施設の随所に陶器の焼き物のレリーフを飾り温かく居心地のよい空間作りに配慮。またクリスマスや正月など季節に合った装飾を施している。	共用空間にはテーブルやソファを設置し、入居者が思い々の場所で、外や庭の花を眺め、台所の様子や音を耳に入れ、五感を刺激している。職員は、動線に物を置かない、音を二重(テレビやラジオ)にしない環境にしている。トイレや浴室への移動も歩行訓練に活かしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	同じフロアーに食卓テーブルとソファセットを設置し気分に合わせて過ごせるような居場所の工夫をしている。また仲の良い入居者同士を同じテーブルにするなど工夫し楽しい時間を過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や、自宅で使い慣れた椅子や枕、布団などを持参される方もいる。本人が居心地よく暮らせるよう机の位置を変えたり工夫しているが全入居者その人らしい居室作りにはいたっていない	居室はベットや筆筒、机を備え、布団や扇風機、写真やカレンダー、時計等を持ち込んでいる。衣替えは家族が来所された時や、入居者と職員と一緒にいる。入居者の動線で家具を配置する等工夫もあるが、居室内環境が画一的となっている。	入居者の意向を把握し、一人ひとりの「居心地の良い家」の環境作りに期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の能力に合わせて職員が常に見守り、声掛けして、設備の使い方を覚えていただき、できることを続けていけるよう支援している。また食後の下膳や食器洗いなども入居者が出来る範囲で行えるよう支援している。		